

【 90 】

氏名	赤 枝 輝 明
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学 位 授 与 番 号	乙 第 1413 号
学 位 授 与 の 日 付	昭和58年12月31日
学 位 授 与 の 要 件	博士の学位論文提出者（学位規則第5条第2項該当）
学 位 論 文 題 目	慢性透析患者におけるインポテンスに関する研究
論 文 審 査 委 員	教授 太田善介 教授 大月三郎 教授 関場 香

学位論文内容の要旨

男性慢性透析患者におけるインポテンスに関して精神病学的、神経学的、内分泌学的に検討した。アンケート調査にて性欲、勃起、射精とも健康時に比し70～80%の高率に減退を認め、慢性透析とインポテンスの間に密接な関連性が認められた。

心理テストとして顕在性不安検査、矢田部・ギルフォード性格検査を行った。不安傾向は認められたが性欲低下との間に関連性は認められなかった。

神経学的検査として球海綿体反射、肛門反射を行ったが勃起、射精との間に関連性は認められなかった。睾丸萎縮が59%に認められ、妊孕性低下が示唆された。

内分泌学的検査では luteinizing hormone (LH), follicle stimulating hormone (FSH)とも高値を示し、LH-RH 負荷により LH, FSH とも反応の遅延が認められた。prolactin (PRL)は59%に高値を認め、性欲低下群に、より高値を認める事よりインポテンスへの何らかの関与が示唆された。dehydroepiandrosterone は低下傾向、dehydroepiandrosterone sulfate は正常範囲内を示しインポテンスへの関与は少ないと思われた。testosterone (T)は低値を示し、HCG 負荷に対しても低反応であり、睾丸間質細胞予備能低下が考えられた。さらに性欲低下群では正常群に比しより低値、低反応を示す事より性欲低下とT分泌低下との間には密接な関連性が示唆された。

それ故T補充療法を行い全例に LH, FSH の正常化、T上昇を認め、インポテンスも93%に改善が認められた。T投与による LH, FSH 下降は negative feedback mechanism によるものと考えられた。

以上より、インポテンスの発症、特に性欲低下には睾丸間質細胞機能低下が重要な因子と考える。

論文審査の結果の要旨

本研究は男性慢性透析患者のインポテンスに関して精神病的、神経学的、内分泌学的に検討したもので、睾丸間質細胞機能低下が重要な因子であることを明らかにした。よって本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。